

NGO サポート募金
「ハイチ地震緊急支援まとめて募金」
活動報告

2010年4月14日 (特活)国際協力NGOセンター

「ハイチ地震緊急支援まとめて募金」概要

開設期間：2010年1月15日から2010年6月17日まで

参加団体一覧（11団体）：

- （特活）ICA 文化事業協会
- （特活）ADRA Japan
- （特活）AMDA
- （特活）グッドネーバース・ジャパン
- （特活）国境なき医師団日本
- （公財）ケア・インターナショナル ジャパン
- （特活）ジェン（JEN）
- （特活）ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)
- （特活）難民を助ける会（AAR JAPAN)
- （特活）メドゥサン・デュ・モンド ジャポン(世界の医療団)
- （特活）ワールド・ビジョン・ジャパン
- （以上 50 音順）

募金総額：15,921,802 円

募金者：個人 116 名様、法人 11 団体/社様

特定非営利活動法人 ICA 文化事業協会

2010 年 4 月 14 日

・ 団体概要：

ICA (Institute of Cultural Affairs Japan) の基本理念は「人間は地域及び組織最大の資源である」をもち、独自に開発した人材育成マニュアル ToP (参加型手法) や PSP (戦略的計画立案) を使い、世界 30 カ国で国際協力事業やニーズ調査、人材育成などを行っている団体である。

・ 代表者： 理事長 佐藤 静代

・ 設立年月：1982 年 10 月

・ ホームページ URL： <http://www.icajapan.org>

・ ハイチ地震支援情報ページ URL： <http://www.icajapan.org/icajapanj/newsJ.html>

【支援地域】

ハイチの首都ポートランスより西に約 16 キロのプチゴアープ地域とレオガン地域

【支援対象】

プチゴアープ地域とレオガン地域の被災者約 15000 名

【主な活動内容】

ハイチ地震がおきた 2010 年 1 月 12 日、ICA ジャパンはハイチとドミニカ共和国の現地パートナーに連絡を取り、現状とニーズ調査を行った。現地の状況は緊迫しており、多くの被災者がパニック状態で食べるものも無い状態であった。当協会は、その連絡を受けニーズの高い支援を受けていないプチゴアープ地域を事業対象地とし、食料配布事業を行う事を決定した。2010 年 2 月 2 日より現地に入りドミニカ共和国で食料を購入し陸路でハイチに入った。現地ボランティアと食料を袋詰めし、配布先のプチゴアープ警察を協働し配布を行った。被災者の女性、男性、お年寄り、障害者など約 6800 名に対する食料配布を実施したが、現地では支援を全く受けていない現実を知ることにもなった。

被災者や地域の代表者、国連機関の支援キャンプを訪問し、インタビューやアンケート調査を行った。その結果を日本に持ち帰り、ICA は東京事務所にて再度ハイチに向かう事を決定した。

【今後の活動予定】

2010 年 4 月に ICA ジャパンのスタッフ 3 名で現地に向かい、1 ヶ月間かけ 8000 名に対する食料支援と被災者参加型の復興ワークショップを行う予定である。食料配布は、現地警察やパートナー NGO と協力して行い、被災キャンプや特別養護施設を周り、食料配布を行う予定である。

被災者ワークショップは被災者が地震当初のトラウマなどを話し合い、情報を共有しながら復興活動の計画を立てる準備を行う。

【活動写真】



プチゴアープ周辺の被災キャンプ。雨期に入り生活環境改善が懸念される。



被災者に食料を配布する ICA ジャパンのスタッフ



現地ボランティアが今も瓦礫（がれき）の始末をしている。



食料配布クーポンを受け取ろうと押し寄せる被災者を説得するスタッフ

特定非営利活動法人 ADRA Japan (アドラ・ジャパン)

2010年4月14日

・ 団体概要：

ADRA は、世界約 120 カ国に支部を持ち、国連などと協働している国際 NGO です。ADRA Japan は、各国 ADRA 支部とパートナーシップを築きつつ「人間としての尊厳の回復と維持」を実現するために人種・宗教・政治の区別なく世界各地で国際協力活動を行なっている。

・ 代表者： 曾根田健二

・ 設立年月：1985年3月30日

・ ホームページ URL： <http://www.adrajpn.org/>

・ ハイチ地震支援情報ページ URL： http://blog.canpan.info/adrajapan/category_4/

【支援地域】

首都ポルトーフランス郊外のカルフル地区及びハイチアドベンチスト大学内の避難村

【支援対象】

ハイチアドベンチスト大学内の避難村の避難民およびカルフル地区の市民

【主な活動内容】

ハイチで約 30 年の支援活動実績がある ADRA Haiti を中心に、被災者支援活動を行なっている。

『避難村運営』

カルフル地区ハイチアドベンチスト大学内で、避難村(約 25,000 人)を運営している。避難村では、食糧や生活物資の配布の他、野外病院による傷病者の治療などを行なっている。また、「ADRA 子どもセンター」を開設し、子ども達の心のケアも行なっている。

『食糧配布』

WFP(国連世界食糧計画)と協働して食糧配布を行なっている。3月は、カルフル地区の 49,852 世帯に対して食糧を配布行なった。

『浄化された水の供給』

地震発生直後は、水浄化タブレットを約 420 万個配布した。その後、Global Medic(カナダの NGO)と協働して、浄化された水を供給している。特に「Trekker(トレッカー)」という移動式浄水装置は、コンパクトでバイクの動力を使って水を浄化ができるため、バイクチームを編成して、カルフル地区で水の供給を行なっている。

また、避難村では大型浄水装置も使用し、避難民に対して供給している。

『医療支援』

ハイチアドベンチスト大学内の避難村に設置している野外テント病院にて、傷病者のケアを行なっている。また、WHO から支給されているワクチン接種も行なっている。

【今後の活動予定】

今後も、ADRA Haiti を中心に、中長期的な支援を検討していく。

現在行なっている WFP との協働による食糧配布や避難村の運営、また、HIV 予防を含む衛生予防教育や心のケア事業も引き続き行なっていくとともに、ハリケーン、雨季への備えをおこなう。

【活動写真】



避難村風景



トレッカーのバイク隊



食糧配布を受けて喜ぶ子ども



野外テント病院

特定非営利活動法人アムダ：AMDA

2010年4月14日

- ・ 団体概要
世界30カ国に支部を持ち、国連経済社会理事会から総合協議資格の認証を受けた、緊急医療支援を中心に国際人道支援活動を行う団体
- ・ 代表者：菅波 茂
- ・ 設立年月：1984年8月
- ・ ホームページ URL：amda.or.jp/
- ・ ハイチ地震支援情報ページ URL：amda.or.jp/articlelist/

【支援地域】

発生時から2カ月間緊急医療支援、サンマルク、ゴナイヴ、ヒマニ、ポルトープランス義肢支援事業（4月～）国境地域ドミニカ側エリアスピーニャ県コメンタドール市

【支援対象】

手足を切断せざるを得なかった地震被災者と、また国境地域のドミニカ人でこれまで義肢装具を着装できなかった人々

【主な活動内容】

医療環境の問題から、命を得るために手足を切断せざるを得なかった地震被災者は、4000人に上る。これら被災者の最も切実なニーズとして義肢支援が挙げられる。国境付近のドミニカ側医療施設ローサ病院敷地内に義肢製作センターを設置し、義肢装具の作成とリハビリを行う。人道的配慮に基づきハイチ人のみならず、近隣のドミニカ人障害者も対象に加える。また、ドミニカ共和国首都サントドミンゴにロジスティクス拠点を置き、サッカーや野球などスポーツなどをおしての心理的な復興支援も実施する。

【今後の活動予定】

エリアスピーニャのAMDA義肢支援センターの責任者となる義肢製作専門家とロジスティクス責任者となる調整員を4月から派遣する。

【活動写真】



ハイチ・ゴナイヴ病院で手術するAMDAコロンビア・カナダチーム



義肢装具支援事業の調査を行う川村調整員(左)



切断手術後の患者

特定非営利活動法人グッドネーバース・ジャパン

2010年4月14日

・ 団体概要：

グッドネーバースは、自然災害、飢餓、紛争などで傷つき苦しんでいる世界中の人たちの緊急支援と開発を目的に、1991年に韓国で設立されました。2004年に日本事務局を開設、特定非営利活動法人グッドネーバース・ジャパンとして法人格を取得しました。

・ 代表者： 代表理事 窪誠

・ 設立年月：2004年12月

・ ホームページ URL：<http://www.gnjp.org>

・ ハイチ地震支援情報ページ URL：http://www.gnjp.org/campaign/emgcy_2010haiti.html

【支援地域】

ハイチ共和国、ポルトープランス、レオガン、グレシエル

【支援対象】

大地震被災者、特に貧困家庭やシングルマザー等の弱者と子ども達

【主な活動内容】

1. ハイチ隣国のドミニカ共和国首都サントドミンゴに調達基地として事務所を設置
2. ハイチの首都ポルトープランスに事務所を設置
3. ポルトープランスにて大型テントを張り緊急医療活動を実施。
4. ポルトープランスにて米軍の警護のもと750世帯に2週間分のコメ・豆を配布。
5. ポルトープランスにて米軍の警護のもと3000世帯に乾燥パスタ3000箱を配布
6. ポルトープランスにて貧困家庭を対象にテント100張を配布
7. ポルトープランスにて母子難民キャンプを設置・運営
8. ポルトープランスの母子難民キャンプにて児童給食・デイケアを提供
9. ポルトープランスのデミアン地区に出来た避難民キャンプにトイレを設置
10. グレシエルの避難民キャンプにて800世帯に防水プラスチックシート2900枚を配布
11. レオガンにて韓国軍PKOの警護のもと800世帯に3週間分のコメを配布
12. ハリケーンのシーズンに備え、仮設住宅の設計内容を検討
13. 仮設住宅建設地の確保

【今後の活動予定】

1. レオガンの被災者700戸に対して木造の仮設住宅を建設し提供する。
2. 倒壊した小学校の校庭で大型テントを張り、授業を再開する。
3. 上記小学校に机・椅子・学用品を供給する
4. 上記小学校にて教員向けにPTSD（心的外傷後ストレス障害）緩和手法のトレーニングを実施
5. 上記教員によってPTSDに苦しむ子どもに対して緩和プログラムを実施
6. 母子避難民キャンプも引き続き運営していく

【活動写真】



食事の準備をする被災者@母子難民キャンプ



無邪気な子供たち@母子難民キャンプ



食糧配布@レオガン



防水シート配布@グレスエル

特定非営利活動法人国境なき医師団日本

2010年4月14日

- ・ 団体概要：
国境なき医師団は、1971年にフランスで創設された非営利の国際的な民間医療・人道援助団体です。世界中の紛争や貧困により危機に瀕した人々への緊急医療援助を主な目的として活動しています。
- ・ 代表者： 事務局長 エリック・ウアネス
- ・ 設立年月：平成11年10月26日
- ・ ホームページ URL：http://www.msf.or.
- ・ ハイチ地震支援情報ページ URL：http://www.msf.or.jp/news/2010/01/2227.php

【支援地域】

ポルトープランス市内：カルフル、トリニテ、パコ、ショスカル、マルティサン等
ポルトープランス市外：サンマルク、レオガン、グラン・ゴアープ、プティ・ゴアープ等

【支援対象】

外科治療、術後ケア、腎臓透析、栄養治療、一般医療、心理ケア、物資配布、水・衛生活動等

【主な活動内容】

地震直後の数週間は、数千人もの患者に外科手術や治療を提供するために時間との闘いが続いたが、国境なき医師団(MSF)の医療援助で現在、より焦点が置かれているのは理学療法や心理ケアを含む術後ケアである。MSFの病院で治療を受けた患者に最善の術後ケアを提供するために、また、ハイチから去りつつある他の団体が治療してきた患者を受け入れるために、MSFは術後ケアのための施設やベッド数を増やしている。さらに、MSFは外来部門を新設し、一次医療の援助にも力を入れ始めている。

また、地震から5週間を経て、いまだに急ごしらえのキャンプや路上で暮らす人びとが直面している過酷な状況を改善するため、MSFはテントや毛布、衛生キット、調理用品のセットなど、物資配布活動を拡大している。MSFは給水活動、トイレなどの衛生設備の建設、テントや衛生用品及び調理器具の配布にあたり、住民が必要とする物資のなかで不足しているものを当局に伝えたり、また、配布を働きかけたりできるようにキャンプ内の状況のモニタリングを続けてゆく。

【今後の活動予定】

今後の活動は患者達が術後のケアを受けられる体制を作る予定で、既に術後ケア専門の施設を開設するところまで活動を拡充させた。具体的には、やけど患者に向けた形成外科とマイクロサージェリー(微小外科)治療、物理療法、リハビリ、心理ケアなどが挙げられる。国境なき医師団は一次医療と二次医療に力を入れており、一次医療は市内各所に設営した外来部門を通じて提供している。二次医療は、救急産科、栄養失調児の集中栄養治療、小児患者と成人患者の入院治療などである。

【活動写真】



仮設病院での外科手術



切断手術後のリハビリ



ポルトーフランスでのテント病院の設置



テントと救援物資キットの配布の様子。

公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

2010年4月14日

・ 団体概要

CARE は、1945 年から 100 カ国以上で人道支援活動を実施してきた世界最大級の国際協力 NGO です。CARE の日本事務局である当財団では、災害時の人道支援を行うとともに、「女性や子ども」に焦点をあてた活動を通して、最も困難な状況にある人々の自立を支援しています。

- ・ 代表者： 代表理事 数原 孝憲
- ・ 設立年月：1987 年 5 月
- ・ ホームページ URL：<http://www.careintjp.org>
- ・ ハイチ地震支援情報ページ URL：http://www.careintjp.org/news/news_100205.html

【支援地域】

Port-au-Prince, Pétienville, Carrefour, Léogâne, Canapé Vert, Cité Soleil, Delmas, Jérémie, Tabarre

【支援対象】

地震による全ての被災者。特に妊婦や授乳中の母親、乳幼児が中心。

【主な活動内容】

CARE は地震発生直後から、食糧・清潔な水・緊急物資の配布および仮設シェルターの設置を最優先に実施するとともに、医療サービス再建のため行政を支援しています。物資の配布にあたっては、安全で円滑に配布活動を行うため、配布地域のリーダーと相談の上、配布計画を決定するなど、現地の人々と協働し、これまでに約 31 万人の被災者に支援物資を配布しました。

また、ハイチは従来、周辺地域の中でも最も高い出産時母体死亡率（10 万人の出産に対し 670 人が死亡）を有する国と言われており、首都ポルトープランスでは 3 万 7,000 人の妊婦が、安全な飲み水や食糧、医療サービスを緊急に必要としました。今回のような大きな地震の被災地では、妊婦は劣悪な衛生環境の中で出産をしなければならず、その結果、妊娠・出産に関連する合併症や死の危険と向き合うこととなります。支援活動の中でも特に「女性と子どものエンパワーメント」に力を入れる CARE は、現地において妊婦や出産後の母親と赤ちゃんの特別なニーズに応えることが何よりも重要と捉え、衛生キット（石けん・歯磨き粉・生理用ナプキンなど）の配布、妊婦や子どもへの水浄化剤配布、乳幼児をもつ母親を対象とした乳児キットの配布、女性やヘルスセンターへ出産キットを提供などの支援を重点的に行っています。

被災地では妊婦や乳幼児はさらに弱い立場に立たされ、母親たちにとっては赤ちゃんに栄養を与えるための授乳を続けることさえも、非常に困難になります。CARE は一人でも多くの女性と子どもの成長を助けるために、支援を続けています。

【今後の活動予定】

6 月にはハリケーンシーズンが到来します。山に囲まれているポルトープランスは幸い、ハリケーンが直撃することはありませんが、山間部で降った大量の雨がやがて流れ込むことによる、洪水の危険性が十分にありまます。このような事態に備えるため、CARE ではシェルター補強に必要な用具の配布や、支援活動を潤滑に行うための車輛の調達などの準備を進めています。

【活動写真】



大統領公邸の修復作業を行う兵士(C)Evelyn Hockstein/CARE



出産キットを配布する CARE スタッフ (右)(C)Evelyn Hockstein/CARE



水浄化剤の使い方を説明するスタッフ(C)Evelyn Hockstein/CARE



仮設シェルターに避難してきた妊婦(C)Evelyn Hockstein/CARE

特定非営利活動法人ジェン（JEN）

2010年4月14日

- ・ 団体概要：
紛争や災害により厳しい生活を余儀なくされている人々が、自らの力と地域の力を最大限に活かして、精神的にも経済的にも自立した生活を取り戻すための支援を行っています。
- ・ 代表者：代表理事 吉岡健治
- ・ 設立年月：1994年1月
- ・ ホームページ URL：<http://www.jen-npo.org/>
- ・ ハイチ地震支援情報ページ URL：<http://jenhp.cocolog-nifty.com/emergency/cat21785389/index.html>

【支援地域】

ハイチ共和国 グラン・ゴアープ（首都ポルトープランスより 50km 西）

【支援対象】

グラン・ゴアープ沿岸部および山間部に滞在する被災者（地域コミュニティの協力により、エリア内でも最も家屋被害の大きい世帯を対象として選択）

【主な活動内容】

ジェンは地震発生後すぐにハイチへの支援を決定し、1月17日にスタッフ3名を派遣しました。治安の悪化やインフラの不足から、当初は被災の実態調査も支援事業も困難を極めました。地震発生から15日経った時点でも支援の届いていなかった町グラン・ゴアープでの支援を決定しました。

このエリアでは、地震により、60%以上の建物が崩壊しました。また、ハイチでは、4月頃から雨季が始まり、6~7月頃にはハリケーンのシーズンに突入するため、風雨を防ぐための住居が早急に必要とされています。

ジェンでは、被災者の自宅の損壊状況を一軒一軒調査し、対象となる世帯を特定した後、簡易住居（シェルター）を作る材料（トタン板など）と工具（ハンマー、ノコギリ、釘など）をセットにした「シェルターキット」を配布しています。2月上旬には、市の中心部に住む700世帯（約4,200人）に対し配布を完了しました。今後、4~5月までに、同グラン・ゴアープの山間部の人びとを含む4,000世帯を対象に、先ほどのシェルターキットにさらに木材を加えたセットの配布を完了する予定です。

【今後の活動予定】

今後の支援内容を特定するために、現在、物資の配布と並行し、現地でニーズ調査を行っています。被災者が一日も早く元の生活に戻れるよう、「心のケア」も考慮しながら、次期のプロジェクト内容を計画していきます。具体的には、学校関連施設の修復、防災訓練や水衛生に関するワークショップなどを検討します。

【活動写真】



配布されたシェルターキットを嬉しそうに掲げる女性。布と木の葉で覆われた自宅前で。



JENのトラックに運び込まれる物資



まさに訪問時に修復を行っていた受益者の方



補修したシェルターの前に佇む受益者の方

特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン

2010年4月14日

- ・ 団体概要：
紛争や災害、貧困などの脅威にさらされている人びとに対して支援活動を行う NGO（Non - Governmental Organization = 非政府組織）であり、1996年の設立以来日本に本部を置き、世界各地で活動している。
- ・ 代表者：大西健丞
- ・ 設立年月：1996年2月
- ・ ホームページ URL：<http://www.peace-winds.org/>
- ・ ハイチ地震支援情報ページ URL：<http://www.peace-winds.org/jp/act/haiti.html>

【支援地域】

ポルトープランス市およびその周辺地域

【支援対象】

被災民 1,450 世帯（約 7,250 人）と学校生徒数約 6,000 人

【主な活動内容】

2010年1月12日に発生した地震の被災者に対し、物資配給と学校再開事業を実施している。

ポルトープランス市内および周辺において自宅が全壊、あるいは半壊して住むことが不可能になった被災住民で、大規模な被災民キャンプには移動せずに近隣の空き地や自宅前などで仮生活を送っている 1,450 世帯（約 7,250 人）を対象に、住宅の瓦礫除去のためのツールキット（シャベル、ハンマー、一輪車、ビニールシートなど）1,000 セットの配布、および緊急シェルターとしてのファミリーテントを 450 張の配給を実施している。

また、全壊した学校 3 校にて、重機を利用した瓦礫除去、仮設テントによる校舎設置、机や椅子、黒板などの学校用備品を供給し、生徒への学用品の配給などを通じ、学校再開への支援をすることで子供たちの教育環境を整える支援も実施している。併せて心理社会ケア専門家による教師への研修や聞き取りを行い、スムーズな学校運営が開始できるような心理面でのサポートも実施する。

これらによって、被災者の住環境を整備するとともに、子供たちの教育環境も整えることを目指している。

事業は国連などの国際援助機関との調整を図りながら、住民自治組織やキャンプリーダー、教育局と協力しながら実施している。現在は日本人スタッフ 2 名が現地に駐在して、事業の運営を行っている。

【今後の活動予定】

2010年5月初めまでは、現在の緊急支援活動を実施する予定である。現在の活動を実施しながら、さらにニーズ調査を進め、今後の支援を決定する予定であるが、基本的には今後も現在の事業を継続する予定で、引き続き緊急の物資配給や、学校の授業再開などを実施することを想定している。

【活動写真】



2010年2月24日時点のハイチの様子



配給場所入り口での、事前に配布済みテント配給クーポン券の真偽確認時の様子



難民キャンプエリア ANCHO でのテント配給開始前の治安維持部隊配置指示の様子

特定非営利活動法人 難民を助ける会

2010年4月14日

- ・ 団体概要：
難民を助ける会は、政治・宗教・思想に中立な立場で活動する国際 NGO です。1979 年にインドシナ難民支援を目的に設立され、これまで 55 を超える国や地域で支援活動を実施。現在は緊急支援、障害者支援、地雷対策、感染症対策、啓発を中心に活動に取り組んでいます。
- ・ 代表者： 理事長 ^{おさ}長 有紀枝
- ・ 設立年月：1979年11月24日
- ・ ホームページ URL： <http://www.aarjapan.gr.jp/index.htm>
- ・ ハイチ地震支援情報ページ URL：
<http://www.aarjapan.gr.jp/lib/act/act1001-1haiti.html>
<http://www.aarjapan.gr.jp/lib/act/act1003-1haiti.html>
<http://www.aarjapan.gr.jp/lib/act/act1003-2haiti.html>

【支援地域】

首都ポルトープランス及びその近郊

【支援対象】

特に厳しい貧困状態にある家庭や、支援の十分届いていないスラム街の家庭など

【主な活動内容】

難民を助ける会は、マグニチュード 7.0 の大地震に襲われたハイチ共和国に緊急支援チームを派遣し、支援活動を行っています。

現地で被災状況を調査のうえ、隣国ドミニカ共和国で物資を調達し、ハイチに運搬。これまで、首都ポルトープランスの中でも、貧困層が住み、被害も著しいシテ・シヨン地区やシテ・ソレイユ地区、リアルヴァイヤン地区などで約 2000 世帯に物資を配布しました。物資の内容は豆、ビスケット、トマト缶、ソーセージ缶、パスタなどの食料や、バケツ、石鹸タオル、生理用ナプキン、パスタオルといった生活必需品、さらに雨季に備え防水シートを配布しています。

配布の際には混乱がおきないように、また災害時に特に弱い立場に置かれる女性や子ども、高齢者にも確実に物資が渡るよう、事前にクーポンを配るなどの工夫をしています。

また、ポルトープランスの中心街シャン・ドウ・マーにあるセルビス・エキュメニック・ダントレッド病院を訪問し、松葉杖 25 組（子ども用松葉杖 5 組を含む）、歩行器 5 台を緊急支援物資として供与しました。

【今後の活動予定】

雨季を目前にしながらテント暮らしを続けるほかない被災者が、まだまだたくさんいます。今後も、支援が十分に届いていない方々に、防水シートをはじめ食料や生活必需品などの支援物資のセットを配布していく予定です。

また、復興に向けて長期的な視点で被災者への支援を継続してまいります。

【活動写真】



防水シートや食料、生活必需品のセットを被災者に手渡す難民を助ける会の堀越芳乃（右）



Leogan での配布
レオガン地区では、防水シートなどの支援物資を配布した直後に雨が降り、「おかげで助かった」と口々に感謝を伝えられた



事前に配ったクーポンを手に、順番に配布を待つ被災者たち。物資が十分に行き届いておらず緊張感の高まる地域でも、混乱なく配布が終了した



物資を受け取った被災者（Leogan）
食料など支援物資がぎっしり詰まったバケツを持って家路につく被災者たち。被災から3か月が経つ今も、支援だけが頼りだという。

特定非営利活動法人 世界の医療団 (メデュサン・デュ・モンド ジャパン)

2010年4月14日

・ 団体概要：

世界の医療団は、世界各地に医療・保健衛生分野の専門スタッフ中心に派遣し、人道医療支援に取り組む国際NGOです。国籍、人種、民族、思想、宗教などのあらゆる壁を越えて、世界で最も弱い立場にある人々に支援の手を差し伸べるべく活動をしています。

・ 代表者： 理事長ガエル・オスタン

・ 設立年月：1995年3月

・ ホームページ URL： <http://www.mdm.or.jp>

・ ハイチ地震支援情報ページ URL： <http://www.mdm.or.jp/index.php>

【支援地域】

ポルトープランスのシテ・ソレイユと総合病院・移動診療所、サノピ地区、プティゴアブ。

【支援対象】

救急やプライマリーヘルスなど医療全般、簡単な外科手術に術前後の手当、心理的サポート。

【主な活動内容】

2010年1月12日以前から既にハイチの国民は、他のどの国の人々よりも大きな苦難を背負って暮らしていました。半数以上(54%)の国民が貧困ライン以下の生活を強いられ、出生時の平均寿命は57歳という低さです。ハリケーンによる被害も無視できません。2年前(2008年)この小さな島国は2ヶ月の間に連続して4つのハリケーンに襲われました。

ハイチは今回の地震によって壊滅的損害を受けました。それは人的被害(死者217,000人以上、負傷者300,000人以上)とインフラ破壊の両面に及びました。20万件以上の家屋が倒壊し、推定120万人が住む家を失いました。50万人以上が首都ポルトープランスからハイチの各地に逃れました。

地震後1日目から世界の医療団は負傷者の治療に当たると同時に、被災者が医療サービスへのアクセス手段を回復できるよう支援しています。この迅速な対応を可能にしたのは、以前からハイチと隣国ドミニカ共和国で長期医療プログラムを実施し活動を続けてきた世界の医療団チームによるものでした。

地震当日ハイチの世界の医療団チームのメンバーは87名、2月の終わりには407名が緊急援助隊のメンバーとして被災現場で働いていました。340人の現地スタッフと67人の海外スタッフから成るこのメンバーを背後で支援するのは、14支部から成る世界の医療団国際ネットワークチームです。

私たちの緊急援助活動は、世界の医療団国際ネットワーク総力を挙げての活動です。このネットワークを構成するチームの内、3チームが既に地震前からハイチで活動、それ以後活動を更に強化しました。他の5チームも緊急救命チームや被災後の医療援助チームを派遣しました。国際ネットワークの残りのチームは、財政支援や人材派遣、物資供給の面で協力しました。又、復旧プログラムにも参加する予定です。

【今後の活動予定】

世界の医療団は、ハイチの現地団体や多数のハイチ人ボランティアと協力して、ポルトープランスで、サンミシェル、カルフルフェウイユ、シテジョルジェ、カナペール、オトメカ、そしてデルマスといった6つの地区、20カ所において手当て、診察を行い、無料のプライマリーヘルスケアを行っています。他、心理カウンセラーが人々のストレスの後に起こるトラウマ状態を診断し、ソーシャルワーカーとしての活動も続けています。

【活動写真】



世界の医療団 巡回診察での活動



怪我をした人々



手当て中の子ども



大地震で崩壊した街

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

2010年4月14日

- ・ 団体概要
ワールド・ビジョン・ジャパンはキリスト教精神に基づき、開発援助、緊急人道支援、アドボカシー（市民社会や政府への働きかけ）を行う国際 NGO です。
- ・ 代表者： 片山信彦
- ・ 設立年月：1987年10月
- ・ ホームページ URL：
<http://www.worldvision.jp>
- ・ ハイチ地震支援情報ページ URL：
http://www.worldvision.jp/news/news_0454.html

【支援地域】

ポルトープランス周辺の17地域

【支援対象】

ハイチ大地震で被災された人々、特に子どもたち

【主な活動内容】

ワールド・ビジョンでは地震発生直後から、緊急支援を開始。食糧、医療品、防水シート、毛布、衛生キットなどの緊急支援物資の配布や、クリニックの運営などを行い、地震で被災した多くの人々を支援してきました。また、子どもたちのためのチャイルド・フレンドリー・スペース（以下 CFS）を開設、運営しています。

CFS は、震災によって心身ともに大きな傷を負った子どもたちが安心して遊び、被災の心理的トラウマを和らげるだけでなく、親や家族とはぐれてしまった子どもたちを保護するための場所です。食糧、医療、専門家による心理的サポートを行うとともに、ゲーム、お絵かき、歌など、子どもたちが楽しめる様々なアクティビティを行うことにより、子どもたちが心に受けた傷を癒し、通常の生活に戻る手助けをしています。

ワールド・ビジョン・ジャパンでは坂賢二郎スタッフ（海外事業部緊急人道支援課）が、1月16日から2月12日まで首都ポルトープランスで緊急支援を行いました。2月9日から、坂スタッフと代わり、加藤奈保美スタッフが現地に入り、緊急支援を続けています。

【今後の活動予定】

今後は、ポルトープランス以外の地域にも支援を広げていくことが必要です。ワールド・ビジョンでは地震発生後から、ポルトープランスの避難キャンプを中心に緊急支援を行ってきました。現在、5～10年の長期的な支援を視野に入れ、中・長期の支援活動計画を策定すべく、綿密なニーズ調査を実施しています。これまでチャイルド・スポンサーシップによる支援活動を行ってきた地域をはじめとして、ハイチ各地に支援活動を広げていく予定です。

【活動写真】



WV Jチャイルド・フレンドリー・スペースで
絵を描く子供たち



WV J 食料配布を行うスタッフ



WV J 配布を行う加藤スタッフ



WV Jハイチの子ども達と話す加藤スタッフ